

これで
わかるちゃ!!

こうじのうさのうしょうがい
高次脳機能障害

富山県高次脳機能障害ハンドブック

第3版(改訂版)



センター長からひと言

富山県高次脳機能障害支援センター
センター長 影近 謙治

脳卒中や交通事故のあと、前とは全然性格が変わったようになったり、外見的にはどこが悪いのかわからないかたでも、記憶力が落ちたり、集中力がなくなり、イライラして日常生活で大いに困ることがあります。また会社や学校へもどつても以前と性格が変わったのかと思うほど違う態度をとったり、対人関係が悪くなる人がいます。これらはすべて脳の損傷による「高次脳機能障害」による症状です。

こうした「高次脳機能障害」やそうかもしれない障害でお困りの患者さんやご家族のために平成19年1月に開設されたのが富山県高次脳機能障害支援センターです。まだまだこの「高次脳機能障害」という症状は、どういう症状でどう対処したらよいかがわからないことが多いです。現在も病院に行かずにご自宅でお困りの方が多いのが現実です。

この「ハンドブック」は、こうした症状でお困りなことにどう対応したらよいかなどをわかりやすく説明してありますので、ぜひお読みいただきおひとりで悩まずに相談していただきたいです。一日も早く正しい対応を取っていただき楽しい生活を送っていただければ幸いです。

令和4年7月

目 次

1	高次脳機能障害ってなあに?	2
2	高次脳機能障害はどうして起こるの?	3
3	高次脳機能障害の症状を教えて	4
4	高次脳機能障害はどうやって診断されるの?	5
5	高次脳機能障害にはどんなリハビリテーションがあるの?	7
6	高次脳機能障害にはどう対応したらいいの?	8
7	高次脳機能障害支援センターがご相談に応じます!	17
8	子どもの高次脳機能障害を知っていますか?	18
9	家族会に話してみませんか?	20
10	いろいろな制度を活用しよう	21
11	よくある質問 Q & A	25
12	おわりに	28
	《参考資料》	29

高次脳機能障害ってなあに？

高次脳機能障害とは、交通事故や脳卒中などで脳が損傷され、記憶力の低下や集中力の低下など、脳の認知機能に障害が起こることです。

高次脳機能障害は外見からはとてもわかりづらく、
見えない障害といわれています。

そのため、周囲の理解を得にくく、ご本人や
ご家族の負担が大きくなることがあります。

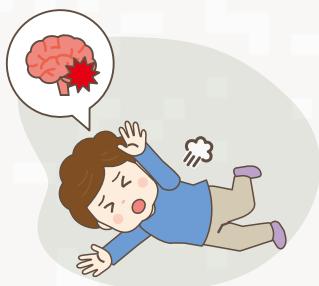


2

高次脳機能障害はどうして起こるの？

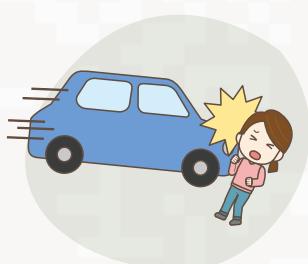
高次脳機能障害となる原因には次のようなものがあります。

脳血管障害



脳の血管が詰まる脳梗塞、脳の血管が破れる脳出血、くも膜下出血などで、脳の機能を損ない、後遺症として生じることがあります。

外傷性脳損傷



交通事故や転落事故などの際に、頭に強い衝撃が加わることで、脳が傷つく脳挫傷、脳の神経線維が傷つくびまん性軸索損傷があります。

その他



脳炎などの感染症や、窒息や心停止などが原因で脳に酸素がいきなくなる低酸素脳症、一酸化炭素中毒や脳腫瘍で生じことがあります。

3

高次脳機能障害の症状を教えて

高次脳機能障害は、ダメージを受けた脳の場所や程度によって、症状が異なります。

のような症状が見られたら、高次脳機能障害が疑われます。



これらの症状は、重複していることが多く、症状の重なり方により障害の状態は、一人ひとり異なります。

4

高次脳機能障害はどうやって診断されるの？

高次脳機能障害の診断は、次のような方法で確認します。表れている症状が、病気や脳外傷によって引き起こされた脳の損傷に関連(因果関係)するのかどうかを見極めます。

問診や行動観察（ご本人およびご家族によって語られる症状の実態）

高次脳機能障害は、検査場面や入院生活では問題がなくとも、**実際の生活や職場では様々な問題がみられることがあります。**

そのため、事故や病気の経過、現状の生活状況やどのような問題があるのかなどを確認します。



神経心理学的検査

高次脳機能障害があるかどうか、あるならその程度を調べるために検査です。いくつかの検査を組み合わせて行うことにより、その人の**障害の特徴や重症度**がわかり、対策を考えることができます。

画像検査・生理検査

頭部のCTやMRI、脳波の検査、脳の血流を測定する検査などを行い、**脳のどこにどのような病変があるかを確認します。**



- ・X線CT(コンピュータ断層撮影)
- ・MRI(核磁気共鳴画像法)
- ・脳波
- ・SPECT(単一光子放射断層撮影)

ご本人の高次脳機能障害の状況を理解している主治医や脳神経外科医、脳神経内科医、リハビリテーション科医、小児科医等が診断を行っています。

正しい診断を受けるために

診断を正しく受けるために、次のようなことを確認して、ご本人・ご家族からしっかりと医師に伝えましょう。

これまでに高次脳機能障害の原因となる病気や事故にあったことがあるかどうか。

例えば

**交通事故や
脳卒中** など

どのような症状で生活に困っているか。



例えば

**少し前のことでもすぐに
忘れてしまう。
一度に二つ以上のことを
しようとすると混乱する。**

など

次のような場合は高次脳機能障害には該当しません。

- 病気や事故の前からある症状
- 生まれつきの病気や出産前後における脳損傷、発達障害、進行性の病気(認知症を含む)の場合

5

高次脳機能障害には どんなリハビリテーションがあるの？

① 認知リハビリテーション

障害された認知機能そのものの回復をうながすとともに、障害認識を向上させ、代償手段を獲得するため個別と集団でリハビリテーションを実施しています。



② 生活版ジョブコーチ

自立した生活が自律的に送れるよう、実際の生活の場(家庭)に出向き、専門的な技術や知識を活用して支援します。



③ 生活・就労訓練

安定した日常生活や就労生活が送れるように訓練を行います。当院の作業療法や高志生活訓練センター^{*}で行います。



④ 自動車運転能力評価・訓練

神経心理学評価、自動車運転シミュレーターでの評価を行います。

*高志生活訓練センター…社会福祉法人富山県社会福祉総合センター敷地内にあります。

6

高次脳機能障害には どう対応したらいいの？

記憶障害を持つ方への対応は

例えばこんな症状がある

- 今日の日付がわからない
- 今、自分のいる場所がわからない
- 自分のしたことを忘れてしまう
- 一日の予定を覚えられない



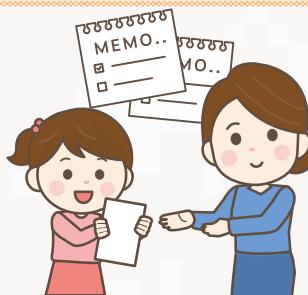
本人へのアドバイス

- メモ帳やカレンダー、タイマーなどを活用する
- 自分のしていることを確認するクセをつける
- その日に起こったことを日記に書く
- 繰り返し行動し、体で覚えるようにする
- 信頼できる人に頼る



周りの人へのアドバイス

- 何か伝えるときには、短くして情報を伝える
- 言葉だけで説明するのではなく、視覚的（メモ書きなど）にも説明する
- 言葉に出したり、書いたりして返事してもらうようにうながす（習慣付け）
- 生活場面で、覚える必要があるもの（明日の約束）と、覚えなくてもよいもの（三日前の朝ごはんの内容）を分けて考える
- 他の症状が重なっている可能性も考える（注意力が低下している、疲れている）



注意障害を持つ方への対応は

✓ 例えばこんな症状がある

- 長時間一つのことに集中できない
- 何かをするときうっかりミスが多い
- 気が散りやすい
- 一つのことをはじめると、夢中になって他のことに気付かない
- 言われていることに興味を示さず、呼びかけに反応しないことがある



本人へのアドバイス

- 一度に多くの作業をしない
- 少しづつ作業時間を延ばす
- 注意項目は、目につく場所に書いておく
- 作業手順がわかるような手順表を貼っておく
- 五感を最大限に利用する(行動を声に出す、色分けして物を分別する)



周りの人へのアドバイス

- テレビを消したり、人を少なくしたりと、集中しやすい環境をつくる
- 何か伝える前に、本人が自分の方を見ているか確認する
- 伝える内容は、単純明快に短くして伝える
- 話が正確に理解できているか頻回に確認する
- 一度にいくつもの作業をやらせないようにする
- なるべく好きだったり、興味があつたりしたものを課題として与える
- 急がせない(十分時間を与えないと、かえって集中できなくなる)



遂行機能障害を持つ方への対応は

✓ 例えばこんな症状がある

- 自分で計画をたてられない
- 間違いを指摘されると、指摘されたことは理解できるが、次に活かせない
- 物事の優先順位をつけられない
- 二つ以上の作業を同時にすることが難しい



本人へのアドバイス

- 時間に余裕をもって計画を立てる
- 作業手順表などを活用する
- 頻繁に立ち止まり、そのつど確認する
- 周囲の人人に質問する

周りの人へのアドバイス

- 一度に多くの指示を与えない
- 急に予定を変更せず、あらかじめ予定を伝えておく
- あいまいな指示を出さず、具体的に伝える(手順をはっきりと示す)
- いつ、どこで、誰が、何を、どのように、そしてその結果どのようになるのかといったことを、具体的に伝える



社会的行動障害を持つ方への対応は

① 欲求・感情コントロールの低下

✓ 例えばこんな症状がある

- じっとしていられない、何事も待てない
- 無制限に食べる、無制限にお金を使う
- してはいけない行動とわかっていても、抑えきることができない
- いつもイライラしている
- ちょっとしたことに腹を立てる
- 一人では冷静になれない
- すぐ怒ったり、笑ったり、感情を爆発させる



本人へのアドバイス

- その原因を探し、避けるようにする
- 何事も行動する前に1秒待つ練習をする
- 必ず第三者に聞いてから行動するようにする
- イライラしたら深呼吸する、その場から立ち去る
- リセットできるような合図を探す(周りの人とも共有できるとよい)



周りの人へのアドバイス

- 本人のことを批判したり、否定したりせず、本人の言うことを最後まで聞く
- 過去に怒ったり嫌がったりしたことは、できるだけ避ける
- 不適切な行動は怒ったり叱ったりせず、冷静にはっきり指摘する
- 発言や行動がどう思われるかを淡々と伝える
- 興奮している時には、席を外したり、話題を変えたりする

② 意欲の低下

✓ 例えばこんな症状がある

- 自分からは何もしようとしない
- やる気がでない、ふさぎ込む
- 考えや言葉が浮かばない
- 前向きに物事を考えられない
- 表情が固い



本人へのアドバイス

- すべき活動や仕事のチェックリストを作って、行動する練習をする

周りの人へのアドバイス

- 「なまけている」と言わない
- 「わかっているけどできない」ということを理解する
- 何事も始めるきっかけを与える
- 生活リズムを整える

③ 固執性（こだわりが強い）

✓ 例えばこんな症状がある

- ひとつのことにこだわって他のことができない
- いつまでも同じことを言ったりする
- 周囲から静止されるまで行動をやめられない

本人へのアドバイス

- 自分中心になっていないか考える
- 感情に振り回されないように、他者とのつながりを見直す



周りの人へのアドバイス

- 不適切な行動は、急にやめるよう指示せず、時間や回数を減らす
- こだわりのデメリットを伝える
- 他のことを取り入れて、気持ちを切り換えられるようにする
- 本人と妥協点を探り、あらかじめルールを決めておく（例えば「約束を意識化させるよう持ち歩く私物に表示する」）

④ 依存・退行（幼児化）

✓ 例えばこんな症状がある

- すぐ他人を頼る
- 子供っぽくなる
- だらしない



本人へのアドバイス

- 年齢相応の行動を意識する
- 自分だけの時間を持つようにする

周りの人へのアドバイス

- 不安になる原因をできるだけ取り除くようにする
- 実生活の中で、ふさわしい行動を伝える
- できることはほめて自信をつけてもらう
- 段階を踏んで一人でできることを増やしていく

⑤ 対人技能拙劣（コミュニケーション能力の低下）

✓ 例えばこんな症状がある

- 相手を思いやることができない
- よい人間関係が作れない
- 場の雰囲気を読めない



本人へのアドバイス

- その場に合った言葉を学ぶ
- 日常的に接する人に症状があることを伝え、理解してもらえるようにする

周りの人へのアドバイス

- 信頼関係のある人が注意をうながす
- 周りの空気を代弁する
- 周囲の人の反応に気付いていない場合、さりげなく話題を変える

⑥ 易疲労性 (身体的にも精神的にも疲れやすい)

✓ 例えばこんな症状がある

- 常に眠い
- 動きや反応が遅い
- 長い時間座っていることができない



本人へのアドバイス

- 自分の疲れのサインに気付く(あくび、イライラ)
- 疲れたらこまめに休む習慣をつける
- 外の空気を吸いに行く
- 軽い運動(ストレッチなど)を行うようにする

周りの人へのアドバイス

- 本人が疲れに気付いていない場合、自覚するよううながす
- 疲れたら少し休むことをすすめる
- 薬による影響かもしれない場合、専門家の指示を仰ぐ

⑦ 病識欠如 (自分自身の障害に気付いていない)

✓ 例えばこんな症状がある

- 病氣をする前の自分と変わりないとと思っている
- 現状ではできないことをしようとする(車の運転、職場への復帰)
- 何か問題があったとき、自分ではなく他人のせいにする

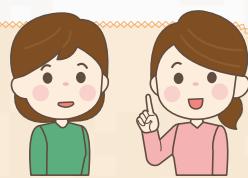


本人へのアドバイス

- 他の高次脳機能障害者の方と同じ時間を過ごし、信頼できる第三者を作る

周りの人へのアドバイス

- 無理やりに障害をわかってもらおうとしない(無理難題を与えない)
- できないことを責めず、冷静にはつきり指摘する
- 病識欠如は症状のひとつと理解する



その他の障害を持つ方への対応は

① 失語症（言葉による意思疎通が困難になる）

✓ 例えばこんな症状がある

- うまく話せない、思った言葉が出ない
- 相手の話が理解できない
- 文字を読んだり、書いたりすることができない

関わり方のポイント

- 会話はゆっくり、はっきりと、具体的に話す
- 身振り、手振りを利用する
- 物や絵を見せる
- 話をさえぎったり、返事をせかしたりしない



② 失行症（手足は動かせるのに、適切な動作がしにくくなる）

✓ 例えばこんな症状がある

- 道具がうまく使えない
(例えば「歯ブラシと歯磨き粉を渡しても歯を磨くことができない」)
- 普段している動作でも、指示されるとできない

関わり方のポイント

- 使う道具の数を減らす
- 簡単に使えるようにする
- 順番、動作を図で示したり、矢印、色など用いて関係づける

③ 失認症（見ているもの、聞いているもの、触っているものが分からなくなる）

✓ 例えばこんな症状がある

- 目の前に見えているものが何かわからない
- 電話で家族の声を聞いても誰かわからない



関わり方のポイント

- 見て理解ができない場合は、触れてみたり、音を聞いてみたり、他の感覚を使用する
- 聞いて理解ができない場合は、筆談や身振り、手振りなどの工夫をする

④ 半側空間無視 (自分の前の空間の半分に注意が向けにくく、対象を見落とす：左側の人が多い)

✓ 例えばこんな症状がある

- 食事の時、左半分のおかずには気付かず残す
- 移動中に左側にあるものにぶつかりやすい

関わり方のポイント

- 全体を見渡す習慣をつける(例えば「食卓」)
- 無視側は見落としやすい(注意が向きにくい)ことを繰り返し伝え、自覚するよううながす



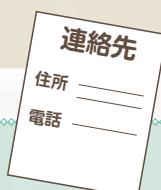
⑤ 地誌的障害 (場所がわからない)

✓ 例えばこんな症状がある

- よく知っている場所で道に迷ってしまう
- 場所や方向など、位置関係がわからない
- 目的地にたどりつけない

関わり方のポイント

- 一人で行動できる範囲を自覚するよううながす
- 道に迷ったときの対処法を話し合っておく
- 連絡先を書いたカードや携帯電話等を身につけておく
- 主だった場所に、目印を設置する(例えば「家」「職場」)



高次脳機能障害支援センターが ご相談に応じます!

電話相談 面談

支援コーディネーターがご本人やご家族から、受傷発症の経緯や現在の状態、生活環境をお聞きします。また、就学・就労などのご要望等を伺います。

医学的診断

医師の診察、画像診断(MRI、CT等)、神経心理学的検査を行い、医学的診断や評価の結果をもとに医師がご本人の状態を説明します。



支援内容

リハビリ

必要に応じて作業療法や言語聴覚療法などの個別リハビリや、生活や就労のためのグループ訓練などの集団認知リハビリを行います。



就学(復学)支援

教育機関と連携しながら復学など安心して学校で過ごせるよう支援をします。



生活支援

生活するうえで必要となる社会性や生活機能の向上のための支援を行います。必要に応じて、生活の場(家庭)に作業療法士が出向き、個々に合わせた支援もしています。



こどもから おとなまで ライフステージに 合った支援

書類作成

障害者年金、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療など制度の利用を支援します。



家族支援

障害の理解、情報交換や交流の場を提供し、精神的なサポートを行います。



ピアサポートとは (P20)

就労(復職)支援

職場訪問などを行ったり、就労支援機関と連携して復職や新規就労の支援をします。



子どもの高次脳機能障害を 知っていますか？

高次脳機能障害は、脳に損傷を受けた後遺症の一つです。

子どもにもみられ、その影響で日常生活や学校生活に支障をきたすことがあります。

**交通事故や
転落などによる脳外傷**

原因は？

**脳腫瘍
急性脳炎の後遺症**

症状は？

記憶障害

- 同じことを何度も尋ねる
- 忘れ物が多い
- 今日の予定を覚えていない
- 思い違いが多い

社会的行動障害

- ボーっとしている
- 赤ちゃんがえり
- すぐキレる
- 言いだしたらきかない



**溺水などによる
低酸素脳症**

注意障害

- 勉強に集中できない
- 注意がそれやすい
- 落ち着きがない
- 声をかけても気がつかない

遂行機能障害

- 指示しないと行動できない
- 順序を立てて物事をすすめられない
- 動作の手順がわからない
- 同じ行動ばかりする



**もやもや病などの
脳血管障害**

- 子どもの症状は成長に伴って変化することがあります。経過を見ながら、長期的な支援が必要です。
- 早期発見、早期対応が大切です。病院または高次脳機能障害支援センターにご相談ください。
- 病院での診断・評価および日常生活、学校生活での様子などから現在の状態を把握し、家庭、病院、学校と協力して今後の対応を考えます。
- 子どものケアは親自身が心身ともに健康でないとできないことです。ご家族だけがんばりすぎないで、一緒に取り組んでいきましょう。ぜひ私たちにご相談ください。



家族会に話してみませんか？

高次脳機能障害によって、将来に不安を感じながら暮らしている方は数多くいます。苦しみや不安を一人で抱え込みます、悩みを共有し支えあおうと家族会は活動しています。

同じような立場の者どうし、気持ちが分かり合えるというだけで、心が楽になります。対応に困っていることなど、みんなで話し合いましょう。

家族会「高志」では様々な活動を行っています。

- ・家族教室
- ・こども家族グループ
- ・ピアサポート(ピアカウンセリング)
- ・高次脳機能障害講演会
- ・パイロットウォーク(他脳障害者との交流)
- ・カルチャー教室
- ・キッズネットワーク宿泊イベント
- ・バーベキュー
- ・バス旅行

家族会に参加している人の感想



下記までお気軽にお問い合わせください。

窓口

NPO 法人 脳外傷(高次脳機能障害)友の会「高志」

TEL 0766-91-0497

〒935-0035 氷見市上田子796 山 加代子 宅

ピアサポートとは

ピア(peer)とは、日本語で「同じ立場にある仲間」という意味です。ピアサポートとは、同じ立場にある・同じ課題に直面している仲間として支えあうことをいいます。

高次脳機能障害は外から見えにくく、周囲からの理解も得にくいため、ご本人やご家族が困ることが多い障害です。だからこそ、同じような経験を持つ方と情報を共有したり、気持ちを共感できる場が大切です。

ピアサポートは、当センターと家族会とが協力して行っています。もちろん秘密は守られます。ご希望の方は当センターへご連絡ください。(裏表紙記載)

高次脳機能障害者の生活を支えるために、様々な制度やサービスがあります。利用要件については制度やサービスごとに異なりますので、興味があるものは窓口に問い合わせてみましょう。

障害者手帳について

内容 障害者手帳とは障害のある人に交付される手帳のこと、「身体障害者手帳」「精神障害者保健福祉手帳」「療育手帳」の3つの種類があります。高次脳機能障害の方は「精神障害者保健福祉手帳」の対象となります。対象となる障害で初めて病院を受診した日から原則6ヶ月以上経過している方が申請できます。対象となるかどうかは病院でご相談ください。

窓口 各市町村の福祉担当課　かかりつけの病院　等

生活・社会参加の支援について

① 介護保険

内容 要介護に応じて、一部自己負担(所得に応じた負担割合)で介護(予防)サービス等が利用できます。

65歳以上の方(第一号被保険者)、又は40歳以上65歳未満の方で特定疾病がある方(第二号被保険者)が対象となっており、要介護認定を受ける必要があります。下記の窓口にお問い合わせください。

窓口 地域包括支援センター、各市町村の介護保険担当課

② 障害者総合支援法

内容 所得に応じて負担上限額が設定されており、身体障害者、知的障害者、精神障害者、障害児、難病患者の方が生活や就労など、一人ひとりに応じた様々なサービスが利用できます。

窓口 各市町村の福祉担当課、各地域の相談支援事業所

③ ハローワーク（公共職業安定所）

就労についての相談・紹介を行っております。障害の方専用の窓口もあります。

④ 富山障害者職業センター

ハローワーク（公共職業安定所）と連携しながら、職業相談から就職支援・職場適応まで一貫した職業リハビリテーションを行う機関です。

⑤ 障害者就業・生活支援センター

「就職がなかなかできない」、「採用されてもすぐに辞めてしまう」、「仕事を教えてほしい」などの悩みを持つ障害者の方への相談・支援を行う機関です。

⑥ 学校・各市町村教育委員会

就学・復学についての相談を行っております。

⑦ 日常生活自立支援事業

内容 判断能力に不安のある高齢者や障害のある方々が住み慣れた地域で安心して生活を送るために福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理のお手伝い、預金通帳や印鑑などの大切な書類を預かるサービスを行う制度です。サービスの内容により利用料金が違います。

窓口 各市町村の社会福祉協議会

⑧ 成年後見人制度

内容 認知症、知的障害、精神障害、発達障害などによって物事を判断する能力が十分でない方について、ご本人の権利を守る援助者を選ぶことで、法律的に支援する制度です。

窓口 家庭裁判所、地域包括支援センター



経済的保障に関する制度について

① 傷病手当について

内容 会社等で仕事をしている方が、病気やけがのため仕事を休まなければならなくなり、給料をもらえなくなった場合、加入されている健康保険から手当金が支給されます。

窓口 勤めている会社の総務(人事)担当者、加入している健康保険の窓口

② 失業給付

内容 会社を辞めた場合に、雇用保険に加入していると、一定期間の所得を保障してくれる制度です。

妊娠、出産、育児、けが、病気などすぐに働けない場合には受給期間の延長届を行うことによって、後に給付を受けることができます。受け取れる失業手当は、離職理由や雇用保険の加入期間、年齢、給料などの条件により一人ひとり違います。

窓口 ハローワーク(公共職業安定所)

③ 障害年金

内容 病気や事故によって一定の障害が残った方に対して年金支給される制度です。原則 20 歳以上の障害者で公的年金加入中の障害者で、受給条件を満たしている必要があります。

窓口 最寄りの年金事務所、街角年金相談センター

医療費に関する制度について

① 高額療養費制度

内容 1か月に医療機関窓口で支払った医療費が、自己負担額(年齢及び所得状況による)を超えた場合は、超えた額が申請により払い戻しされます。また、あらかじめ手続きを行うことによって下記の窓口での医療費の支払いが自己負担限度額になる制度もあります。

窓口 勤めている会社の総務(人事)担当者、加入している健康保険の窓口

② 高額介護サービス

内容 介護サービスの1か月の利用料が高額になった際に、申請により負担上限額を超えた分の金額が支給されます。

窓口 各市町村の介護保険担当課

③ 高額介護合算療養費

内容 年間の医療費と介護保険の介護サービス費の自己負担額が高額になった際に、申請により負担上限額を超えた分の金額が支給されます。

窓口 加入している健康保険の窓口

④ 自立支援医療（精神障害者通院医療費助成）

内容 精神疾患の継続的な通院医療に要する費用が、原則1割負担（申請時に指定した医療機関や薬局などでのみ有効）となります。また、所得状況により各月の負担上限額が定められます。

窓口 各市町村の障害福祉担当課

⑤ その他の手当

内容 介護手当、障害児福祉手当、特別児童扶養手当、特別障害者手当など、障害の程度などにより、本人や家族に手当が支給される制度があります。詳細は下記の窓口にお問い合わせください。

窓口 各市町村の福祉担当課



Q 高次脳機能障害は治るの?

A

「治る」という言い方はできませんが、軽いものであれば、病気をする前と同じ状態にまで近づくことができることもあります。治らないものでも、環境を整え、社会生活積み重ねていくなかで症状が軽くなることがあります。

Q 高次脳機能障害と発達障害はどう違うの?

A

発達障害にも、注意力の低下やコミュニケーションの困難など、高次脳機能障害と同じ部分があります。原則として、高次脳機能障害は後天性で(脳損傷の経験がある)、発達障害は先天性(もって生まれた特性)です。病気やけがで脳を損傷した年齢によっては、判別が難しい場合もあります。

Q 高次脳機能障害と認知症はどう違うの?

A

認知症は進行性のものが多く、リハビリに期待できるのは脳機能を維持していくことです。高次脳機能障害は、リハビリテーションによる脳機能の改善が見込めます。高齢の方で、脳の損傷が認められる場合、判別が難しいことがあります。

Q 訓練すればするほど症状は良くなるの?

A

脳損傷後の認知機能低下の回復は年単位と言われています。筋力トレーニングのように、やればやるほど筋力がアップするというようにはいきません。脳が損傷することで、脳は疲れやすくなっています。それに気付かず訓練ばかりすると、かえって逆効果になることもあります。自分に合った訓練と休息が大切です。

Q 高次脳機能障害は悪化するの?

A

良くなることはあっても、悪くなることはありません。「悪くなった」と感じるようであれば、何かしらの原因が考えられます。脳が損傷することで、その日の調子に波が大きくなりやすく「悪くなった」と感じることもあります。また、症状によっては、環境が変わることで(例えば「転居」「職場の配置換え」)、環境に対応できず「悪くなった」と感じることもあります。何か別の病気が起きていることも考えられます。振り返って確認することが大切です。

Q 高次脳機能障害は障害者手帳の対象になるの？

A

障害者手帳の対象になります。現在、日本には身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の3種類の障害者手帳が存在し、高次脳機能障害の方は「精神障害者保健福祉手帳」の対象となります。

Q 高次脳機能障害になると障害年金はもらえるの？

A

障害の程度によっては年金支給の対象となります。障害年金をもらうためには、受給要件を満たす必要がありますので、詳しくは高次脳機能障害支援センターや年金事務所、病院のソーシャルワーカー等にご相談ください。

Q もうすぐ病院を退院しますが、今後どう過ごしたらよいか不安です。

A

退院後は、病院ではうまくできていたことが、一人では難しくなり、生活のリズムが乱れることがあります。まずは、日中の活動性を高め、規則正しい生活を送ることが大切です。趣味などの活動をすると、それ自体が生活のリズムにつながりやすくなります。また、生活訓練や職業訓練などの福祉サービスを利用することもできます。

Q 高次脳機能障害になっても働けるの？

A

働くことができる人は多くいます。ただし、職場の理解や自分の能力にあつた仕事を選ぶことが大切です。就労支援機関などで相談することもできるので、活用しましょう。働き続けるには、職場調整をすることも大切です。

Q 高次脳機能障害だと車の運転はしてはいけないの？

A

運転をするには様々な注意力と瞬時の判断が求められます。そのため、認知機能や運転シミュレーターでの評価、訓練ができる医療機関にご相談ください。車の運転には大きな社会的責任が伴いますので、家族も含め慎重に検討することをお勧めします。

Q 子どもの進学について、通常級と支援級のどちらがいいの？

A

どちらが良いと決まっているわけではありません。あくまでも子どもの症状に合わせて、家族と学校とで相談しながら選ぶ必要があります。日ごと・時間ごとに自由が効くような体制が必要かもしれません。

Q 学校で体育や運動の部活をしてもいいの？

A

高次脳機能障害(症状)の重症度によって異なりますが、すべての運動が禁止というわけではありません。主治医とよく相談し、本人にとって危険な種目の授業や部活を知る必要があります。配慮事項をよく確認し、学校の先生方と相談してください。

Q 家族が悩みや不安を相談する場所はあるの？

A

高次脳機能障害支援センターにいつでもご相談ください。センターで対応できない内容の場合は、専門の機関をご紹介いたします。また、家族会もあります。同じように悩み苦しむ方が、仲間として支えあえるようピアサポートも行っています。一人で悩みを抱え込まずに、お気軽にご相談ください。



- 高次脳機能障害は、何年もかけてゆるやかに変化していきます。回復や周囲の理解の元で、学業や就労を継続することが出来ます。
- 思いがけない病気や事故による障害のため、ご本人やご家族が、以前との違いを理解し受け止めるのに時間がかかります。

「できない」ことより「できる」ことを見つけよう

あせらずゆっくり、生活の中でリハビリを

一人で抱え込まず、相談しよう



参考資料

参考 URL

- 1) 国立障害者リハビリテーションセンター「高次脳機能障害情報・支援センター」
(<http://www.rehab.go.jp/>)
- 2) 厚生労働省「みんなのメンタルヘルス」
(<http://www.mhlw.go.jp/kokoro/>)
- 3) 福井県高次脳機能障害支援センター「福井県高次脳機能障害支援センター」
(<http://www.f-gh.jp/koujinou>)

参考文献

- 1) 石橋徹『軽度外傷性脳損傷』, 金原出版, 2009 年.
- 2) 太田令子編『わかってくれるかな、子どもの高次脳機能障害』, クリエイツかもがわ, 2014 年.
- 3) 栗原まな『よくわかる子どもの高次脳機能障害』, クリエイツかもがわ, 2012 年.
- 4) 栗原まな『わかりやすい小児の高次脳機能障害対応マニュアル』, 診断と治療社, 2009 年.
- 5) 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター職業リハビリテーション部編『2011年度版 就業支援ハンドブック—障害者の就業支援に取り組む方のために』, 新日本法規出版, 2011 年.
- 6) 中島恵子『みんなでわかる高次脳機能障害生活を立て直す脳のリハビリ「注意障害」編—家庭・老健・デイケアセンターで使えるドリル・リハビリ問題 165 間付き!』, 保育社, 2012 年.
- 7) 中島ハリー・寺島彰編『高次脳機能障害ハンドブック—診断・評価から自立支援まで』, 医学書院, 2006 年.
- 8) 名古屋市総合リハビリテーションセンター編『50 シーンイラストでわかる高次脳機能障害「解体新書」—こんなときどうしよう?家庭で、職場で、学校での“困った”を解決!』, 阿部順子・蒲澤秀洋監修, メディカ出版, 2011 年.
- 9) 橋本圭司『生活を支える高次脳機能リハビリテーション』, 三輪書店, 2008 年.
- 10) 橋本圭司『高次脳機能を育てる』, 関西看護出版, 2010 年.
- 11) 橋本圭司『高次脳機能障害のリハビリがわかる本』, 講談社, 2012 年.
- 12) 渡邊修『高次脳機能障害と家族のケア—現代社会を蝕む難病のすべて』, 講談社, 2008 年.
- 13) 和田義明『リハビリスタッフ・支援者のためのやさしくわかる高次脳機能障害』, 秀和システム, 2012 年.
- 14) 『社会保障の手引—平成 26 年度版施策の概要と基礎資料』, 中央法規出版, 2014 年.
- 15) 2019 年度版医療福祉総合ガイドブック NPO 法人日本医療ソーシャルワーク研究会, 医学書院.
- 16) Q&A脳外傷第 3 版高次脳機能障害を生きる人と家族のために NPO 法人日本脳外傷友の会, 明石書店, 2010 年.
パンフレット『成年後見人制度—利用をお考えのあなたへ』
<https://www.courts.go.jp/toyama/vc-files/toyama/file/104169.pdf>
- 17) 富山市くらしの便利手帳 富山市市民生活相談課, 2018 年 11 月.
- 18) 介護保険と高齢者福祉の手引き H30・31・32 年度版 富山市, 東京法規出版, 2018 年 4 月.

相談窓口

富山県高次脳機能障害支援センター

〒931-8517 富山市下飯野 36
(富山県リハビリテーション病院・こども支援センター内)

まずは、お電話にてご予約ください。

TEL **076-438-2233**

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター内の交換台につながりますので、
「高次脳機能障害支援センター」とお伝えください。

受付時間

月曜日～金曜日(祝日は除きます)

午前9時～午後5時



- 富山駅前「4番乗り場」より県リハビリセンター行地鉄バスが運行されています
(所要時間 30分)
- 富山駅前からタクシーで 25 分
- 富山駅乗車、東富山駅下車タクシーで約 5 分